

【2024年度高大接続入試（法学的思考型）選考の講評】

筆記試験

国語の基礎学力を総合的に問うような筆記試験を課しました。志願者によって若干の差はあったものの、志願者全員が一定程度の国語の基礎学力を有していると判断できました。

グループディスカッション

1. 課題文について

本年度は、課題文として、制服の法的位置づけを歴史と意義から論じた文章を提示しました。

その出題意図は、主に以下の3点を問うことにありました。

- (1) 課題文から、以下の論旨を正確に読み取った上で、議論ができていますか？
 - ・著者の問題意識：
制服着用の強制・制服非着用の「強制」の法的根拠は合理的なものといえるか。
 - ・著者の述べる「強制」の意義：
学校の「指導・処分」が「事実上の強制力」を持っていること。
→「指導・処分」が法的に認められる範囲を超えるか否かという観点から議論しているか？
- (2) 制服着用の「強制」の根拠が、①経済格差の遮断と、②精神の規律であることを踏まえた議論ができていますか？
- (3) 制服非着用の「強制」について、その根拠（教育や校内の秩序維持）を含め、言及しているか？

2. グループディスカッションにおける評価ポイントについて

(1) 論理性、説得力

グループディスカッションのテーマである「学校がその生徒に対して、制服の着用・非着用を『強制』することを認めるべきか？それとも、自由化を認めるべきか？」について論ずるためには、「制服着用の強制・制服非着用の『強制』の法的根拠は合理的なものといえるか。」という著者の問題意識と、「学校の『指導・処分』が『事実上の強制力』を持っていること。」という著者の述べる「強制」の意義を理解して論ずる必要があるところ、残念ながら、これらの点を意識しないまま議論している志願者が一定数いました。例えば、「熱中症対策のために制服を自由化したほうが良い」等という意見が散見されましたが、そのような意見は課題文の論旨からは逸脱するものです。グループディスカッションでは、課題文の論旨を踏まえた上で議論するようにしてください。

また、グループディスカッションにおいて「筋道を立てて物事を考えた上で、他人を説得できるような理由づけを伴って、発言する」ことが基本中の基本であることを、意識してください。

(2) 視野の広さ、傾聴力、整理・集約力

良い意見が出て、それに続いてそれに絡めた意見が出ず、議論が深まらないことが散見されました。他の志願者の意見を踏まえた上で、それに関連する意見を述べ、議論を深める

ようにしましょう。また、(1)でも述べたように、「視野の広さ」はあくまで、課題分の論旨を踏まえた上で求められるものであることも確認しておきましょう。

司会が、他の志願者の発言の趣旨を理解できないまま間違っただ要約をしていることがありました。間違っただ要約がなされた場合、元の発言者や他の志願者が丁寧な言葉づかいで間違いを正す発言をすることは、プラス評価につながります。特に司会者は、他の志願者の発言を正確に理解し、論点を的確に取りまとめることが、プラス評価につながることを、覚えておいてください。

また、「最終的には、グループディスカッション参加者の様々な意見を適切に整理したうえで、20分の制限時間内にグループとしての結論を適切にまとめて、代表者が発表すること」を、強く意識してください。合格を目指すならば、グループディスカッション後半に、自分自身も含めた参加者全員の立場および理由づけを適切に整理して、グループとしての結論をまとめることに貢献するような発言をするのもよいでしょう。

(3) 積極性

積極的に自らの意見を述べているかについては、志願者によって差がありました。1回しか発言できていなかった志願者や、司会から話を振られたとき以外全く意見を述べていることができていなかった志願者がいました。積極的に自らの意見を述べるということは、グループディスカッションにおける最も基本的な立ち居振る舞いであることを、再度、確認しておいてください。

また、せっかく良い意見を述べても、場の雰囲気流されてしまって、議論を深めることができなかつた志願者もいました。場の雰囲気流されることなく、自信を持って自分の意見を述べましょう。

(4) その他

次のようなグループがありました。

・20分の時間の振り分けが課題文で提示されていたにも関わらず、時間配分がうまくできていない。

・20分の制限時間内にグループとしての結論を適切にまとめて、代表者が発表する必要があるところ、20分の制限時間内に代表者による発表をできていない。

・時間切れを極度に気にして、議論が深まらず、発言を一巡して終わりになっている。

・課題文で必要とされていない役職を独自に設けた上でその役割を果たしたり活用したりできていない志願者がいた。

・司会が、グループディスカッションの流れを適切にとりまとめることを、できていない。

司会に立候補すること自体は、評価対象ではありません。選考の際に司会に立候補することは、ハイリスク(グループディスカッションの流れを適切にとりまとめられなかつた場合、低評価につながる)＝ハイリターン(グループディスカッションの流れを適切にとりまとめ

られた場合、高評価につながる)であることを、確認してください。

- ・タイムキーパーが、正確に時間を把握し参加者全員に知らせることをできていない。

合格を目指すならば、ある役職を担った以上その役職に求められる役割をきっちりと果たすことが必要とされます。

なお、以上で指摘した課題に対応するために、必要に応じて次のような取り組みを行うことも考慮に入れるとよいでしょう。

- ・タイムキーパーはもちろんのこと他の志願者も、20分の制限時間内に代表者による発表をすることを意識する。
- ・司会が、グループディスカッションの流れを適切にとりまとめることができていない場合に、司会以外の志願者が司会を補助するような発言をする。
- ・タイムキーパーはもちろんのこと他の志願者も、正確に時間を把握したうえで、参加者全員に知らせることに、注意を向ける。

まとめ

これまでの講評でも繰り返し述べたことですが、高大接続入試(法学的思考型)で問われるのは、特別な能力や技能ではなく、これまでに習得してきた基礎的な知識と思考力・主体性です。したがって、確実に合格を目指すためには、何か特別な対策をするのではなく、授業を中心とした普段の活動に精力的に取り組むことを最も大事にしつつ、さらに世の中の様々な出来事に対して幅広い関心を持つことを心掛けてください。